アーチルニュース　ちぇなっぷ

発行元：仙台市発達相談支援センター　〒981-3133 住所 仙台市泉区泉中央２丁目 24－1

TEL：022-375-0110 Fax:022-375-0142　e-mail:fuk005410@city.sendai.jp

イエス　ウイ　キャン　チェンジ

YES. WE CAN CHANGE！

「We can change！」私は、この言葉が大好きです。つらい気持ちも、不安な気持ちも変えることができます。そんな希望に満ちた言葉だと思います。障害のために自信を失い、意欲を失ってしまった青年たち「You can change！」

あなたたちは自信を取り戻し、意欲をもって自分の人生をその主役となって生きることができます。そんなふうに変わることができます。あなたたちを苦しめていた環境でさえ、家族や先生や私たちと一緒に「We can change！」変えることができるのです。そして「We have to change！」みんなで変えなければならないのです。そんな気持ちにまで私たちを導いてくれます。

変化の兆しも見えています。その兆しは「We can change！」という言葉と共に私たちを勇気づけます。特殊教育から特別支援教育へ変わり、一人ひとりが大切にされる考え方が少しずつ広まりつつあります。発達障害についての理解も徐々に広がってきました。誰かが変えるのではありません。変えるのは「WE　私たち」、「YOU　あなたたち」、変わらなくてならないのも、障害のあるなしに関係なく「WE　私たち」であり、「YOU　あなたたち」です。私たちの一人ひとりが、多様な考え方や生き方を認め合い、その考え方に沿って人生を実践できるように、自分自身を変える必要があるのです。

「We can change！」変えることができる。だからこそ「We have to change！」

一緒に変えていきましょう。変わっていきましょう。障害児者にとって暮らしやすい社会は誰にとっても暮らしやすい社会です。そんな社会を目指して、障害の有無に関係なく、「YES,WE CAN CHANGE！」なのです。

所　長　後藤　敬二

※ちぇなっぷは「CHIN UP・前を向いて」の意味です。

届いてますか？子どもたちの願い…

今回は、心身ともに大きく変化する思春期の子どもたちの思いと、身近にいる私たちができる支援について考えてみました。

～うまく伝えられない、でも本当はわかりあいたい～

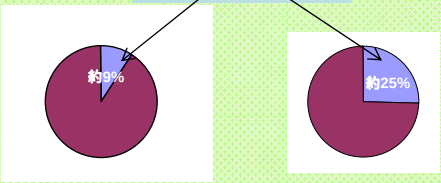
学校に通う時期、年齢が上がると…

平成20年度、初めてアーチルに相談に来た小学生～高校生は346人。小学生249人、中高生97人です。

年齢が上がるにつれて発達そのものの心配に加えて、学習面や集団生活についての相談も増加します。

新規相談の中高生のうち１／４強に「不登校」や「家庭内での乱暴な言動」が見られます。自分を否定的にとらえ、悩み苦しんで、さまざまな言動で伝えようとしている子どもたちも少なくありません。

不登校や家庭内での乱暴な言動が見られる相談者



小学生（249人）　中高生（97人）

（平成20年度アーチル新規相談者）

少しのきっかけやサポートがあれば・・・

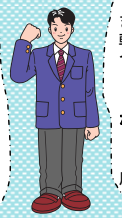
中学1年生の女子（アスペルガー症候群）

中学入学後まもなく友達からの嫌がらせで不登校になってしまいました。

「登校した時、先生（特別支援教育コーディネーター）が遠くから黙ってうなづいて微笑でくれていた。それだけでしたが、それだけよかったんです」

ときどき休むこともありますが、学校に通えるようになっています。

温かく見守ってほしい



17歳の男子（広汎性発達障害）

中学校卒業後は進学せず、家での生活が続いていました。趣味で通う自転車販売店の店長から、「自転車のことよく知っているね。自転車好きに悪いやつはいないのさ」と言われ、

「自分のよさを分かってくれる人がいた。こんな自分でもいいんだ」

少しずつ自信を取り戻し、今ではその自転車販売店で働いています。

自分を理解してほしい

高校3年生の男子（高機能自閉症）

中学３年の進路を考えるための話し合いでのことでした。それまで親の言うことに従ってきた彼が、就労させたいと考える親の反対を押し切り、「高校に進学したい」と勇気を持って周りの人たちに伝えました。

「みんながんばって（応援して）くれている。僕もホンキでがんばろうと思った」

今では介護ヘルパーを目指して勉強をがんばり、休日には地域のイベントで得意なカレーを作り、小中学生にふるまうなどいきいきと過ごしています。

自分の願いを受けとめて応援してほしい

どう感じているのか知っていますか？

大人が考える子どもの心配事と子どもたちが実際に抱いている思いは、はたして同じなのでしょうか。一つひとつの言動に惑わされることなく、子どもたちのＳＯＳに気づいていますか？

みんな楽しそうに笑いあっているけど、何が楽しいのか読み取れない。周りになじめなくて一人で本ばかり読んでいた。

「本当は友達がほしかった」

高校に入ってから周りの空気を読むようにがんばった。でもわからなかった…疲れてしまった。

「自分でもどうしていいかわからない」

家に帰りたくない。できない勉強を夜遅くまでさせられるから…〇〇くんのようにはできない…

「そんなに頑張れないよ」

学習が難しくなっている中高生（学習障害）

その場の状況や相手の意図を読むことが苦手な中高生（広汎性発達障害）

自分の長所？･･･わからない。よくないところ？･･･人に迷惑をかけてしまうところとか･･･

「だって先生や親がそう言っていたから」

わたしが発表すると周りがシーンとしちゃうの。

「わたし、みんなの迷惑になるからもうしゃべらない…」

何をやっても怒られてばかり。

「どうせオレはダメなやつ」

先生は自分のために一生懸命やってくれるけど、私の悩みを聞いてくれない。聞いてほしい。

「でもなんて言われるか不安で伝えられない」

友達とのトラブルで注意を多く受けている中高生（ADHD）

大人は、私の表面しか見ない。トラブルがあると理由も聞かずに責める。弁護士のいない裁判に出されているようだ。

「本当のことを分かってほしい」

私たち大人にできることは･･･？

思いをうまく表現できないいらだち、親や先生に語ることのできない悩みを抱えながら、思春期を過ごす子どもたち。彼らは大人が想像している以上に、周りを気にして傷ついています。

私たちにできること…

それは、自分のことを大切な存在として受け入れてくれる人、同じ目線でともに考えてくれる人との出会いによって自信を取り戻していけるということをしっかりと受け止め、

もう一度視点を変えて子どもと向き合うこと　ではないでしょうか。

卒業までにどんな力をつけてあげればいいのか？中学校まで、何を大切にしてきたのか引き継いでほしい。（高校教師）

今の担任は、親も気づかない本人のよさを見つけてほめてくれる。毎日が楽しそう。（保護者）

学校に期待するのは、本人が自信を持って「こうしたい」と表現できる人になれるような支援…（保護者）

本人の願いを真ん中においた支援、みんなで！

本人も話し合いに参加して一緒に考えることが大切ではないか。（中学校教師）

先生によって子どもへの支援の考え方が変わってしまう。どうして…？（保護者）

小学校では別室登校で少しずつ自信を回復しました。中学校でも、安心して通える居場所を作ってほしい。（保護者）

＜関連情報＞①発達障害の子どもたちの理解啓発資料（市教育委員会ホームページ）
②コミュニケーションハンドブック（アーチルホームページからリンクできます）

かけはし

「アーチル」とは「アーチ（arch：橋）」と「パル（pal：仲間）」とをかけたもので，センターが障害者と市民の「架け橋」になるようにとの願いを込め，市民公募によってつけていただいた愛称です。このコーナー「かけはし」は，読者の皆さんとアーチルが双方向で情報交換できるよう，皆さんや職員からのメッセージなどを掲載していきたいと思います。

『一緒に考えよう会』を実施しました

乳幼児支援係では，幼稚園に入ってからアーチルに来所したお子さんと家族の支援について見直すため，昨年度，グループインタビューやアンケート調査を行いました。その結果，最もニーズの高かったものが，子どもへの対応を理解するための〝つどい〟でした。

１０月９日に開催された『一緒に考えよう会』では，参加された方が〝心のうち〟を語り，「相談後すぐにこういう場を紹介してほしい」「これからのことを仲間と語りたい」「後輩にも同じようなサービスを」などの願いが出されました。この活動を通して，保護者の求めるアーチルの初期支援システムへとつなげたいと思います。

平成２１年度
第一回　療育セミナーを開催しました！

平成２１年７月２６日（日），午後１時から「のびすく泉中央」にて、『第一回療育セミナー　本人・家族を中心とした発達障害児者への支援を考える「自分の人生の主人公としてとして生きるとは」』を開催しました。

第一部では、姫路市総合福祉通園センター「ルネス花北」所長の宮田広善氏の講演、第二部では、仙台市なのはなホーム園長の加々見ちづ子氏の講演及び宮田、加々見両氏の対談を行いました。セミナー終了後、参加者からいただいたアンケートには「障害を認めた上で自立していくための援助や、力となれるよう努めたいと思った」「子どもとの接し方が大人になるまで大切だと思った」「実際に障害がある人と関わってきた方々の話は説得力があり、興味が持てた」など、多数のご意見をいただきました。

＜セミナーの概要はアーチルのホームページをご覧ください＞

「発達支援フォーラム 」を開催します

住み慣れた地域で，障害があってもなくても，「主人公として生きる」ことについて考えます。

日時：**平成２２年１月１０日(日)13:30～17:00**
場所：**青年文化センター　シアターホール**
テーマ：**自分の人生の主人公として生きるとは…**
講師：**堀田　力　氏（さわやか福祉財団理事長）**

※市政だより(12 月 1 日号)，ホームページをご覧の上お申し込みください。

編集後記

先日相談に来た少年のことばです。“僕は昆虫博士。授業中に先生の代わりに虫の説明をして，みんなにすごいって言われたんだ。”自分の長所を認めてもらえた彼が，嬉しそうに話してくれました。私たち大人はいつも子供たちに自信を持たせることができる存在でありたいと思っています

学齢児支援係：山田